

# Le Rapport de Rennes Bien être



始まりました！



今年度1年間、研修(Congé Sabbatique、サバティカル)の機会を頂戴し、20年かかって念願のフランスに滞在し始めました。大妻学院には中学・高校の教員にも研究する機会を提供してくれるシステムがあります。昨年度アメリカ合衆国に滞在された伊賀先生からバトンタッチされました。大妻中野では理科(生物)の教員をしていましたが、かねてから日本とフランスの人や文化交流をしたいとその方法を模索し、フランス人の日本語学習法や文化的な背景の違いなど研究したいと思い、今回のサバティカルにこぎつけました。

4月2日にフランスのRennes(レンヌ)に降りたち、寮の向かいの建物にはLiberté, Égalité, Fraternité(自由、平等、博愛)の表示が。滞在開始から早くも2週間が経ち、ようやく生活の基盤ができました。レンヌはブルターニュ地方の地方都市で、人口の1/4が学生の学園都市です。2km四方にぎゅっと街が集まり、人が穏やかで親切、そこかしこに大きな公園があります。私の徒歩通勤途中にあるタボール公園は街中とは思えないほど広くて美しく、小さな滝、大きな鳥小屋(小さい子でいつも大混雑)もあります。

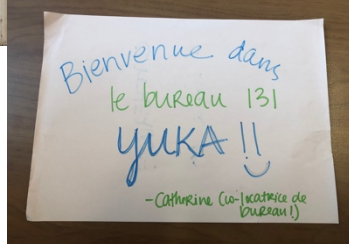
## いきなりフランスの洗礼？！

予定通り、パリのシャルル・ド・ゴール空港で乗り継ぎ、最終目的地のレンヌのサン・ジャック(ホタテ)空港に降り立ちました。全てが順調だったわけではなく、フランスの入国審査のスタンプの日付が翌日になっていたり(何か問題でも?といわれた)、ロストバゲージに遭い(パリに置き去りになっていたため、最悪ではないくてよかったね!と明るくいわれた)ました。

翌日からお世話になる大学院(IGR-IAE de Rennes, 通称イジェール)の事務方とランデヴー(rendez-vous、約束)があったので初めて大学院に出向き、まさにお約束通り30分遅刻されてメールのやり取りしかしていなかった方と対面しました。予定していなかったバスと一緒に仕事をする日本語の先生にご挨拶をしたと思ったら、研究室の鍵を渡され、すぐに日本語の授業の手伝いをして帰宅しました。

## いざ、IGR-IAE de Rennesへ

このIGR-IAEは経済学に特化した職業訓練大学院で、初年度レンヌで日本語を習得して、次年度は日本の大学(東北大学、神戸大学、早稲田大学など)に通いながらインターシップをすることが課せられている修士課程です。元々はレンヌの商工会議所が地域の経済発展のために日本と提携・開始したコースで、校舎は日本企業が出資して建て、地域だけでなく、フランスの経済関係の要職につく卒業生を輩出している大学院です。興味のある人



は大学院の HP を見てください。平易な英語の PR 動画で関係者の様子(ボスの Madame Picot-Coupey、ピコ教授)がよくわかります。

<http://www.igr.univ-rennes1.fr/content/centre-franco-japonais-de-management>

実際に、留学生の生活確立のお手伝いをする公のセクションで私が最初に会った方はピコ教授の研究室の卒業生だったり、入居予定のアパルトマンの大家さんが IGR-IAE の卒業生でした。このように IGR-IAE は地域経済の活性化に一役を、本気で担っていることが明らかです。また、日本語を履修するコースの学生は、「日本の文化や人が魅力的だから」「日本で起業し社長になる」など、フランス本土の学生だけでなく留学生もこのコースを目的にして在籍しています。次回、もう少し掘り下げたことについてレポートします。

## 提携校訪問

滞在 3 日目はいよいよ Loche(以下、ロシュ)にある提携校 Saint-Denis International School(以下、サンドゥニ)と Tours にある語学学校 Tours Langues の訪問をしました。サンドゥニには既に夏休みのフランス語学短期留学やターム留学で滞在したことのある人もいますね。ロシュは周囲には何もありませんが、ため息がでるほど美しい街です。本腰を入れてどっぷりとフランス語やフランスの文化背景に触れるのには最適な環境です。今回この時期にサンドゥニ訪問に至ったのは、芸術と科学の祭典(文化祭)の開催期間だったからです。

## 芸術と科学の祭典

インターナショナルスクールよろしく、ここには世界各国からの留学生が集結しています。そのため男女別の寮が完備され、バカンス中は保護者の代わりになるのが学校関係者なので留学生が安心して滞在することができます。今回私は数時間の滞在でしたが、ターム留学した妻中生ロスを悲しそうに訴えてくる生徒や先生に会いました。生徒も先生もとても sympa(サンパ、ステキ)な学校です。私が訪問した日は文化祭のフィナーレで学校以外の地域の劇場を借りて、この文化祭期間で発表された出し物の中で表彰された団体がそれぞれリバイバル上演するところでした。副校長先生のフィリップ先生の案内で席に着き、日本から大切なお客様が来ていますとまで紹介されました。その出し物にはミュージカルあり、ダンス(民族舞踊という方がしっくりきます)あり、お芝居あり、特に驚いたのは中学生による腹話術!…言うまでもなく、自分の国の出し物がおもちゃ箱のように次から次へと展開されました。この様子は、世界各国にいる家族が見られるようにライブ配信されていました。



## Tours Langues

トゥールはロシュよりも都会的な印象ですが、日本人中学生・高校生が滞在するには丁度良い環境の街です。トゥールラングはフランスでも有名なフランス語学校(IGR の人も知っていました)で街の私塾とはいえ、教室のしつらえも工夫されています。特に PC 室の机は圧巻です。100 年ほど前に学校で一般的だった蓋を開けて机の中にモノを入れるタイプの机を 1 つ 1 つ改造して利用しています。映画でしか見たことがない机を目の当たりにし、修理や工夫してモノを大切に使うフランスの気概に触れた瞬間でした。また、トゥールラングの先生たちは初対面の私に対しても砕けた対応で、少々面食らいました。フランス語には二人称に vous(あなた)と tu(お前、あんた)の 2 種類があり、初対面や距離を置きたい人には vouvoyer、近い仲では tutoyer を使います。私も vous の方が活用が易いので使い続けていたところ、どうして tutoyer にしないのかと言われたことがあります。午後から通っている生徒の遠足について行きました。ミニバスの中では、どうしてフランスに来たのか、などのアイスブレイクからどんどん会話の糸口を見つけられ、どんどん話すようにしかけられます。少しはうまく話そうと色気を出している場合ではなくなり、思いの外、たくさんフランス語を話した午後でした。この環境で 1 週間でも滞在すると違ってくるだろうと体感しました。

夏休みの短期留学の際、少しだけ皆さんの顔を見に伺えるといいなと思っています。

